

## LEGEND Travel Award 2019 学会参加レポート

神戸大学大学院医学研究科 シグナル統合学分野吉田弘樹

この度は、LEGEND Travel Award 2019 に当選させて頂き、誠にありがとうございます。ご支援いただき、2019年12月11日から13日にかけて開催されました、第48回日本免疫学会学術集会に参加いたしました。私は、B細胞に関する研究テーマを実施予定であることや、自己免疫疾患の発症機序に興味があるため、本学会の自己免疫とB細胞に関するシンポジウムに参加いたしました。その中で、印象に残った研究について紹介いたします。

荒瀬尚先生率いる研究チームは、MHCクラスII分子のシャペロンタンパクが折りたたみ異常を引き起こすことによって、関節リウマチが発症するという、自己免疫疾患の新たな発症機序を提示しました。これまでに、MHCクラスIIの対立遺伝子が自己免疫疾患の感受性を強くすることが明らかになっていました。一方、MHCクラスII分子による自己免疫疾患の免疫応答制御は明らかになっていません。本研究では、関節リウマチ患者のMHCクラスII分子の解析などから、自己抗体の産生される原因を示しています。折りたたみ異常を引き起こしたMHCクラスII分子のシャペロンが、細胞膜表面に提示された場合、その折りたたみ異常タンパクに自己抗体が結合することを明らかにしました。この結果から、自己反応性B細胞がMHCクラスII分子にのっている自己抗体を認識し、自己抗体を産生することが示唆されました。将来の自己免疫疾患の治療開発及びそれら研究促進に拍車をかけると思い、非常に有意義な研究であると考えます。

ワークショップやポスターセッションでは、他の研究者による様々な免疫学の研究を拝見し、研究のテーマや課題のアプローチ方法における重要性を知りました。研究テーマは、他者に興味を示してもらうために、印象に残るようなオリジナル性、そして研究課題のアプローチ方法は、実験の展開及び独創性が必要であることを実感致しました。又、自身の研究成果を発信するために、英語などの言語及びプレゼン能力が求められることを理解致しました。

本学会での経験が活かされ、充実した研究生活を行うことができると共に、将来、プレゼンなどの技能向上につながると考えております。参加の機会を与えてくださったTomy Digital Biology社様に、重ねて感謝申し上げます。